

こんしゅう じ こ さつ しん
今週のことば「自己刷新」

せいしょ ふくいんしょ
《聖書》ルカによる福音書 6:39-45

さつ しん
刷新

さつしん ことば だいに
「刷新」という言葉が、第二バチカン
こうかいぎ ねん ねん こう
公会議（1962年～1965年）の公
ぶんしょ とうじゅう ころ きょうかい
文書に登場した頃は、カトリック教会の
あいことば つか
合言葉のように使われていました。

さいしょ ほっぴょう てんれいけんしょう
最初に発表された「典礼憲章」（19
ねん てんれいさつしん
63年）により典礼刷新はすすめられま
しょうかいけんしょう ねん
した。「教会憲章」（1964年）では
きょうかい い かいせいど まえ かみ たみ
『教会の位階制度』の前に『神の民』の
しょう もう かみ たみ さいしゅう じゅうようせい きょう
章を設け、神の民の司祭職の重要性を強
ちゅう さいご ほっぴょう げんだいせい
調しました。最後に発表された「現代世
かいけんしょう ねん げんだいじん
界憲章」（1965年）では『現代人の
よろこび き ぼう かな くる とく ます
喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に、貧
ひとびと くる ひとびと
しい人々とすべて苦しんでいる人々のも
でし よろこ き ぼう
のは、キリストの弟子たちの喜びと希望、
かな くる しん にんげんてき
悲しみと苦しみでもある。真に人間的な
こと でし ころ はん
事がらで、キリストの弟子たちの心に反
きょう よ お ひと
響を呼び起こさないものは一つもない』

せつめい
と説明されています。

じ こ さつ しん
自己刷新

てんれい せいど さつしん ひと
典礼や制度が刷新されたとしても、一
り ひとり じ こ さつしん ひつよう
人一人の自己刷新が必要です。そのため
じ ぶん み たいせつ
には、まず自分を見つめることが大切で
た じん こと ひ はん まえ じ ぶん こと
す。他人の事を批判する前に、自分の事
よ み しら ひつよう
を良く見て調べる必要があります。
み ひつよう ころ さが ころ なら
見るために必要な心は、探す心・習う
ころ かんが
心です。このままでいいという考えでは
つね あら い し た
なく、常に新たになろうとする意志、他
にん まな い し ひつよう
人から学ぼうとする意志が必要です。
また げんじょう たい はんたん ひつよう ただ
又、現状に対する判断も必要です。正
はんたん くだ せいしょ もと
しい判断を下すためには、聖書に基づい
ふくいんてき かし かん み ひつよう
た福音的価値観を身につける必要があります
いっばんしゃかい かし かん ふくいん
ます。一般社会の価値観ではなく、福音
てき かし かん もと にんげん せいちょう
的価値観に基づいて人間として成長でき
たが たす
るようになるためには、お互いの助けが
ひつよう
必要となります。

ねんかんだい しゅじつ ねん たきの
年間第8主日C年（瀧野）